

2009 年 6 月 26 日

(これは、ロンドンにて 6 月 25 日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータード PLC(その子会社を含む。以下、「グループ」と称します)は、今年度6月中間期末に先立ち、アナリストおよび投資家の皆様を対象とした説明会を予定しておりますが、当報告書においては説明事項詳細についてご説明させていただく所存です。

弊行グループCEOであるピーター・サンズのコメントは以下のとおりです。

「スタンダードチャータード銀行は、今年度上半期(5月現在)において収益・利益共に過去最高益を更新し、前期を上回る底堅い実績を収めることができました。しかし、景気については一部市場で回復の兆しがあるものの、未だ翳りが見える状態にあります。持続的な回復局面入りとなるには時期早尚と考えており、引き続き慎重なスタンスを保持してまいります。また、私どもは、銀行業の基本原則ともいえる流動性、資本、リスク、コスト管理を軸とした慎重な経営姿勢を貫く所存です。市場の回復は、西側諸国と比べ私どもが主要事業拠点を置くアジア市場が早いと思われることから、これまでの慎重かつ堅実な事業展開を鑑みても、私どもは大変優位なポジションにあるといえましょう。また同様に、高い流動性、強固な資本力、新規事業展開への能力も兼ね備えています」

特に明記のない限り、本報告書(2009年度)は2008年度上半期業務報告を参照にしています。

損益勘定

今年度5月末時点におけるグループ業績は、営業収益、税引き前利益共に過去最高を記録し、引き続き底堅い業績を計上いたしました。

コンシューマーバンキング部門における収益の伸び悩みの影響が一部見られましたが、ホールセールバンキング部門の大変好調な業績に支えられ、良好な収益成長となりました。

また、ホールセールバンキング部門において資産サイドの利鞘が拡大したものの負債サイドの利鞘が減少したことから、グループ全体では純資金利益が僅かながら減少しました。

グループ従業員数については、引き続き厳格なコスト管理を実施した結果、2008年第3四半期以降月次ベースで減少傾向にあります。また、同年上半期よりさらに投資費用を抑え、投資判断についても厳格かつ十二分な管理を実施いたしました。

その結果、ホールセールバンキング部門における卓越した収益成長と慎重なコスト管理により、不確実な景気局面にありながら、スタンダードチャータード銀行は今年度上半期においても底固い業績(5月末時点)を維持しています。

財務諸表

アセットクオリティー(資産の質)については総じて予想通りに推移しておりますが、一部顧客を取り巻く外部環境の変化から、今年第2四半期には減損損失が増加しています。一方、社債および戦略的投資に関しては、株式市況を反映し、年初来多額の評価損計上はございません。

資産担保型証券(ABS)の帳簿価格は、主に償還によって、38億米ドル(2008年12月31日時点)から約32億米ドル(5月末時点)に減少しました。今年度上半期(5月現在)における同減損損失は最小限に抑えられています。詳細につきましては、添付資料(別紙)をご参照ください。

また、スタンダードチャータード銀行は昨年度末と同レベルの預貸率を有し、引き続き高い流動性を維持しています。今後数年間、キャピタルマーケット(資本市場)における資本増強の必要性は非常に低く、引き続き底堅いファンディングの構造を堅持しています。インターバンク取引においても資金放出ポジションを維持すると共に、潤沢な資本(Tier1)と自己設定目標レンジを上回る総資本比率を有しています。

以前にご報告のとおり、効果的な資本管理を積極的に実施してきたことで、Tier2債および交換取引により、第2四半期には、税引き前利益2億4,800万米ドルを認識しました。また6月付で15億米ドル相当のRCI(Reserve Capital Instruments—Innovative Tier 1債)を成功裏に発行しました。デリバティブ取引に対する未実現損益の減少により資産価値が下落し、昨年度末以降バランスシートは縮小しています。これによりバランスシートの拡大は制限されたものとなりました。リスク加重資産については、昨年度末以降、比較的低レベルでの増加率に抑えられています。

業況

コンシューマーバンキング事業

同事業部門の営業収益については、預金利鞘の収縮および、ウェルスマネジメント事業における売上高低迷の影響で、引き続き厳しい局面にあります。

今年度上半期の収益は前期を下回る見込みですが、下半期には、それを超える収益計上になると予想しております。

コンシューマーバンキング部門では、事業戦略面からさらに顧客本位のビジネスモデル導入を推し進めてまいりましたが、クロスセル取引の比率向上、実力・経験を兼ね備えたシニア・リレーションシップ・マネジャーの雇用、合理化、コールセンターにおける合理化と生産性の向上、業務プロセスの簡素化等を含む広範な分野での改善への取り組みが、明らかに収益成長と事業の効率化として表れています。

商品面では、住宅ローン商品の取扱量が増加し(特に香港)、利鞘改善となったことから好調な業績を計上しました。

ウェルスマネジメント事業では、引き続き預金高増強に努めましたが、スプレッド(収益となる資金調達金利と運用金利の差)の大幅な減少を相殺するに足る残高確保には至りませんでした。また、投資商品への需要低迷については、2008年以降、大幅な改善の兆しが見られません。市場全般では、売上高(日次ベース)については、香港など一部地域市場が僅かに回復したものの、未だ懸念が残る状況です。株式商品については、売上高に落ち込んだものの、FX商品、保険商品への需要が回復したことにより、一定の持ち直しが見られます。

融資事業が主な中小企業向け金融事業については、スプレッドの縮小に加えて、担保融資への移行を引き続き実施したこと、既存のローンポートフォリオからリスクの高い事業セクターを外し見直しを図ったことが業績に影響しました。

コスト管理に関しても、今後とも引き続き慎重に取り組んでいく所存です。今年度上半期には、為替の影響やアメリカン・エクスプレス銀行のコスト効果等により、前期比10%超のコスト削減が見込まれています。(後述のプライベートエクイティ・マネジメント・グループ・PEMグループに関する影響を除く)。

今年度初めに発表いたしましたように、PEMグループを発行元とする仕組み債に関して、スタンダードチャータード銀行は顧客からの買戻しに合意しています。当該仕組み債(額面ベースで総額1億9,000万米ドル相当)は、台湾の新竹国際商業銀行(Hsinchu International Bank)により、グループへの統合前に売却されたものです。また、第2四半期には当該金額の大部分が費用計上される予定です。

同事業部門における資産クオリティー(資産の質)および融資減損分については、概ね予想範囲内で推移しています。しかし、第2四半期においては、主にインド、パキスタン、アラブ首長国連邦(UAE)における業況悪化のため、第1四半期と比べ数千万ドル程度の悪化が見込まれています。

貸出資産に関しては、積極的なリスク管理や担保資産への注力、また、住宅ローンの融資比率の慎重な管理により、良好に推移しています。

また、市場シェアを拡大した韓国・香港・シンガポールにおける担保貸付事業が主な牽引材料となり、総資産成長率に穏やかな伸びが見られます。

コンシューマーバンキング部門では引き続き顧客預金高の増強を目指しておりますが、当期は特に香港で給与振込口座数にかなりの増加が見られるとともに、シンガポール・韓国においても当座預金口座数が堅調に伸びています。

ホールセールバンキング事業

上半期における同事業部門の業績は、現時点で大変好調に推移しています。既存顧客層とより親密な関係を構築することで、顧客収益の伸びをさらに押し上げました。

同事業の業績は、市場シェア拡大や資産サイドの利鞘拡大、収益成長を担う複数の収益源に支えられ好調に推移しています。第1四半期における最高益計上に続き、収益は4-5月と右肩上がりに伸びています。

年初来の総収益は、現時点で前年同時期より大幅に増加。各地域事業拠点、顧客層、商品群とそれぞれ広範にわたり、バランスの取れた収益成長が見られます。

その中でもシンガポール、中東・南アジア諸国(MESA)、香港、韓国における収益成長には、特に目覚ましいものがあります。

今年当初数カ月間における好調な市況を反映し、ホールセールバンキング部門の自己収益が大幅に増加しましたが、その総収益はこれまで通り、概ね顧客収益によるものです。

利鞘向上を目指すリプライシングの推進により、昨年度下半期以降、融資・トレードファイナンス事業は共に堅調に推移し、主な商業銀行サービス業務の業績が良好なものとなっています。トランザクションバンキング事業においてスタンダードチャータード銀行がトップの地位を占める市場では、同事業の市場シェアをますます拡大しつつあります。

トレードファイナンス、キャッシュマネジメント事業においても市場シェアを拡大しており、他行をしのぐ実績を収めています。コーポレートファイナンス事業もまた、上半期の業績には目覚ましいものがあり、数々の大型案件を取得するとともに、プロジェクト取引に手堅く取り組んでおります。コモディティ事業については、過去複数期にわたり同事業への投資を行う一方、複数の大型案件、特に中東・アジア地域での案件を手がけることで、目覚ましい成長を見せています。

自己収益もまた、市場ボラティリティを逆手に取るとともに、取引チャンスを生かしたことで大変手堅い実績を計上しています。特に、今年当初数ヶ月における収益状況(アンダーラインベース)は非常に好調に推移しています。また、債券・コモディティ取引は両ビジネスとも堅調なものとなっています。ALM事業については、イールドカーブ(利回り曲線)の急上昇と有価証券売却益に支えられ、底堅い収益を計上(累積ベース)。年初来、大変好調な業績を上げています。しかし現在は、より低い利回りのポジションに動きつつあります。

第2四半期、昨年下半年期と比べてかなり小規模ではありますが、市況改善が追い風となり、プリンシパルファイナンス事業で複数件の案件獲得が実現いたしました。

費用については、リスク調整後収益にリンクされたボーナスの増加が主なものですが、日常業務(BAU)関連費用を抑えることで、堅調な収益成長を達成することができました。

第2四半期におけるホールセールバンキング事業のクレジットクオリティー(信用の質)は悪化しました。上半期の融資減損分は前期比で増加が見込まれてはいるものの、下半期には、融資減損およびその他減損累計額がそれより下回ると考えられます。昨年度、デリバティブ取引に対する貸倒引当金は実質ベースで減少しましたが、今年度、減損額は増加傾向にあります。そのため、今後もリスク管理に積極的に取り組むと共に、不確実な経済環境を鑑み、強い警戒感を持って事業展開をしていく所存です。

スタンダードチャータード銀行は、業界再編成によるメリットを最大に享受し、特に競合他行の多くが撤退または規模縮小を余儀なくされる中、主要事業拠点において顧客フランチャイズモデルを堅実かつ持続的に展開しています。私どもはこの数年間にわたり、市場で底固い事業力を構築してまいりましたが、これによりさらなるビジネスチャンスを捉えることが可能となりました。

昨年度期末以降、同事業部門において慎重に資産増加を図る一方、リスク加重資産(RWA)の増加については倒産確率方式への移行の影響を考慮しても、昨年来、順調に制御されています。

韓国

国内事業は順調に推移しています。現地において先進的内部格付(Advanced Internal Ratings Based)手法を実施する最初の銀行として受賞したほか、金融機関として持ち株会社を設立した最初の外資企業でもあります。

しかし、今年度上半期、前年比で35%を上回るウォン安が、一部業績(ヘッドラインベース)に多大な影響を及ぼしています。

年初来の収益(5月現在)は、通貨ベースで1桁成長が見られるものの、前年比では減少(ヘッドラインベース)となっています。

ウェルスマネジメント事業の売上高低迷や帳簿上の中小企業向け(SME)融資の抑制、また引き続き預金利鞘の収縮により、コンシューマーバンキング事業における収益は低迷しました。その一方で、住宅ローン事業については昨年下半期以降、大変堅調に収益増を計上。好調な収益モメンタムが見られました。

ホールセールバンキング事業は、概ね顧客収益の伸びに支えられ、年初来、2桁成長を記録しています。

費用については、過去数期にわたる事業再編成への取り組みやウォン安の影響を受けて順調に管理運営されています。

融資減損額が増加し、上半期の収益を押し下げました。これは、SME向け金融事業におけるクレジット環境が弱含むとともに、ホールセールバンキング事業のデリバティブ取引から派生した貸倒引当金によるものです。

最後に

世界の経済状況は未だ不確実であることから、今後の見通しについては引き続き慎重な姿勢を維持しておりますが、スタンダードチャータード銀行における今年上半期(5月現在)の収利益は過去最高値を更新し、堅調な業績が見込まれています。ホールセールバンキング部門では、顧客本位の戦略展開が功を奏し、年初来、卓越した業績を上げています。一方、コンシューマーバンキング部門では、ビジネスモデルの転換を実施し、景気回復に向けてフランチャイズ事業の再編成に注力してまいりました。グループの事業基盤(ファンダメンタルズ)は引き続き堅固であり、高い流動性ととともに、慎重な投資プロファイル運用により潤沢な資本力を保持し、手堅いリスク・コスト管理を実施しています。また、新規事業展開にも前向きに取り組んでいく所存です。

別紙: 資産担保型証券 (ABS)

	2008年12月31日付		
ABSへのエクスポージャー額 (単位:百万米ドル)	元本価格	帳簿価格	公正価格
RMBS			
US Sub-prime	0	0	0
US Alt A	84	57	35
US prime	2	1	0
UK/その他	1,024	969	858
CDO			
ABS	208	32	30
その他 CDO	379	306	225
CMBS			
US CMBS	147	129	92
その他 CMBS	671	525	466
その他 ABS	1,935	1,740	1,551
合計	4,450	3,759	3,257
AFS 引当金計上額	(309)		
損失計上額	(164)		

	2009年5月31日付		
	元本価格	帳簿価格	公正価格
		0	0
	80	50	24
	1	1	0
	873	806	636
	160	20	16
	367	291	209
	143	125	75
	680	480	331
	1,519	1,377	1,249
	3,823	3,151	2,540
	(40)		
	(13)		

業務予測報告に関するカンファレンスコール(再録)は、当行オフィシャルウェブサイト
(<http://investors.standardchartered.com>)で、webcast および podcast にて視聴いただけます。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia

+44(0)20 7885 7245
+852 2820 3958

日本語での問い合わせは、以下へご連絡ください。

スタンダードチャータード銀行 コーポレートアフェアーズ部部长
クリストファー・ドミター

Tel: 03-5511-1361/ Fax: 03-5511-9333

Christopher.Domitter@sc.com

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。